

路上生活の子供たちが社会復帰するための介入の有効性に関するエビデンスの欠如



路上生活の子供たちの社会復帰と健康面を改善するためのさまざまな介入があるが、その後の社会・教育復帰、雇用のアウトカムを測定した研究はまだない。精神面に関して介入の効果はみられず、またそのエビデンスが混在している。薬物乱用に関してはその数字に減少があるかもしれない。

このレビューは何か？

世界中の何百万もの路上生活の子供たちが、搾取、暴力、薬物乱用、健康問題の危険にさらされており、能力に応じた教育を受けていない。教育機会と、健康的で定住生活の入手、およびリスクの軽減を促進するための介入は、この子供たちの人生により良い可能性を与え、また社会からの疎外を防ぐためのものである。

このレビューは何を調査したか？

このレビューは、路上生活の子供たちの社会復帰、能力に応じた教育、雇用の見通し、および健康リスクの軽減を促進するための介入の効果を検査している。

どのような研究論文が含まれていたか？

対象となる研究デザインは、社会復帰、教育、雇用、健康面の促進または危害の軽減、シェルターの提供を目的とした路上生活の子供たちおよび若者に対する介入のアウトカムと、比較群(例:通常のシェルター/ドロップインサービス・一時立寄所)と比較しているものである。レビューは19の介入を評価する13の研究を明らかにした。1つ(韓国)を除いて、すべての調査研究はアメリカで行われたものであった。

このレビューの主な結果は？

社会復帰のアウトカムは、このレビューが対象とした研究調査では測定されていなかった。教育および雇用関連の結果についても同様であり、このレビューに含まれている研究のどれもが読み書きの能力、基本的計算能力、または教育への参加、あるいは能力に応じた雇用の数値を測定していない。いくつかの研究は健康関連のアウトカムを測定していた。

5件の研究が、安全に性的行為を行うことの奨励、または性的行為(例:パートナーの数、性行為の頻度、HIVの知識、避妊なしの性交渉、コンドーム使用、および禁欲の割合)の減少を促すための介入の効果を検査している。結果は数値が混在し、十分なエビデンスに欠け、どの介入の結果も裏付けできない。

薬物乱用リスクの減少を目的とした介入のいくつかは効果的かもしれない

このレビューの目的は何か？

このレビューでは、路上で生活する子供たちや若者らの健康に関連するリスクを減らし、社会、教育への復帰そして雇用機会へのアクセスを改善するなどのアウトカムを増進する介入の有効性を評価した。



このレビューがどれぐらい最新のものか？

このレビューの著者らは2015年4月まで妥当な研究論文を検索した。このキャンベル系統的レビューは2016年に発行された。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画は、系統的レビューを公開している、国際的・自主的・非営利の研究ネットワークである。我々は、社会および行動科学のプログラムに関するエビデンスの質を評価し、まとめている。我々の目的は、人々がより良い選択そして政策決定ができるように手助けをすることである。

この要約について

この要約は、キャンベル系統的レビュー2016:5 Esther Coren, Rosa Hossain, Jordi Pardo Pardo, Brittany Bakker 著「Interventions for promoting reintegration and reducing harmful behaviour and lifestyles in street-connected children and young people」(10.4073 / csr.2016.5)に基づき、最初にLoyal PattuwegeとBianca Albers(Centre for Evidence and Implementation、オーストラリアのSave the Children)によって起草された。要約は、Tanya Kristiansen(キャンベル共同計画)によって再デザイン・編集、作成された。



Centre for
Evidence and
Implementation



International
Initiative for
Impact Evaluation

8件の研究が、安全な薬物使用の促進または乱用を減少させる介入のアウトカムを報告している。アウトカムは、様々な期間に行われ、異なる研究調査において多様な尺度を用いていたため、明確な全体像を得ることは困難であった。全体的な効果については結果が混在している；いくつかの研究ではプラスの効果が報告されており、他の研究ではネガティブまたは全く効果が報告されていない。3件の研究が薬物乱用における家族療法の効果を調査し、その測定値のいくらかは有効性を報告している。

8件の研究が、路上生活の子供たちの精神状態(自己肯定感・うつを含む)を改善するための治療的介入の効果を調査している。概して述べると、対照群と比較して介入群に有意な改善はなかった。場合によっては、両方のグループがベースラインからは改善がみられた。最後に、2件の研究が家族機能に対する家族ベースのアプローチの効果を調査している。使用されたアウトカム尺度の大部分において、介入群の条件と対照群の条件の間に違いは見られなかった。

エビデンスの質はどうだったか？

エビデンスの質は、低(すなわち、性的行為および家族療法におけるリスク低減)から中程度(すなわち、精神面の改善と薬物乱用における害低減)であった。

このレビューでわかったことが意味することは？

路上生活の子供たちや若者らの社会への復帰を改善し、能力に応じた教育を提供するための介入に関する対照試験からのエビデンスは不足している。安全に性的行為を行うことや、精神面の改善を目的とした健康介入からのエビデンスは広範囲にわたって変動しており、それらの有効性は確定的ではない。薬物乱用リスクの減少を目的とした介入のいくつかは効果的かもしれない。この分野におけるさらなる研究は、これらのアプローチの有効性を理解し、ある程度のエビデンスによって裏付けられているいくつかの介入の効果を実証するのに役立つであろう。